

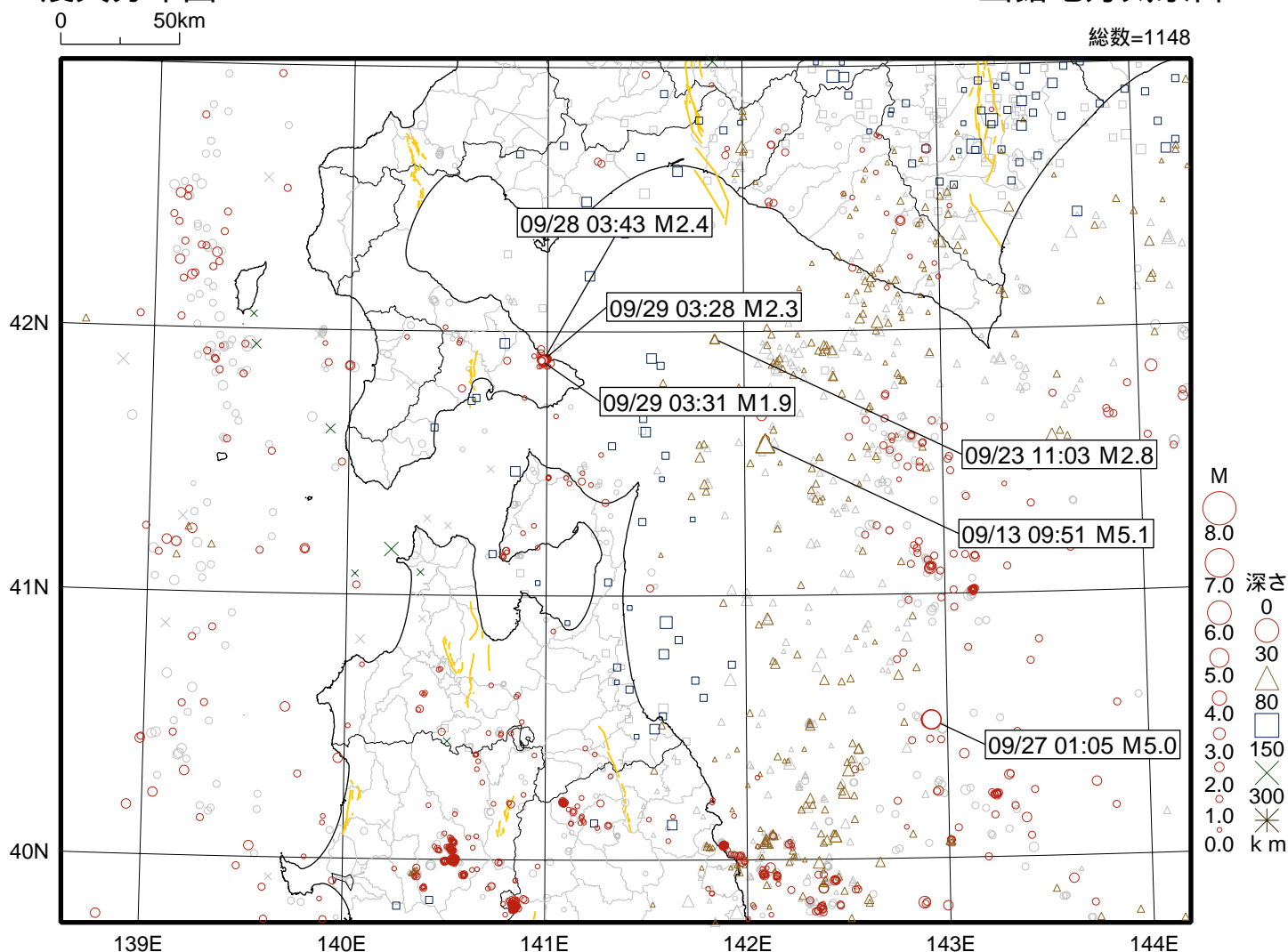
渡島・檜山地方の地震活動図

2022年9月1日～2022年9月30日

震央分布図

函館地方気象台

総数=1148



地震概況（2022年9月）

この期間、渡島・檜山地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は5回（8月は4回）でした（詳細は「渡島・檜山地方で震度1以上を観測した地震の表」参照）。

13日09時51分、青森県東方沖¹の地震(M5.1、深さ54km)により、函館市泊町で震度3を観測したほか、函館市新浜町で震度2、七飯町、鹿部町、森町、木古内町で震度1を観測しました。

28日03時43分、渡島地方東部²の地震(M2.4、深さ9km)により、函館市川汲町で震度1を観測しました。ほぼ同じ場所で29日03時28分と29日30時31分にも地震が発生し、それぞれ函館市川汲町で震度1を観測しました。

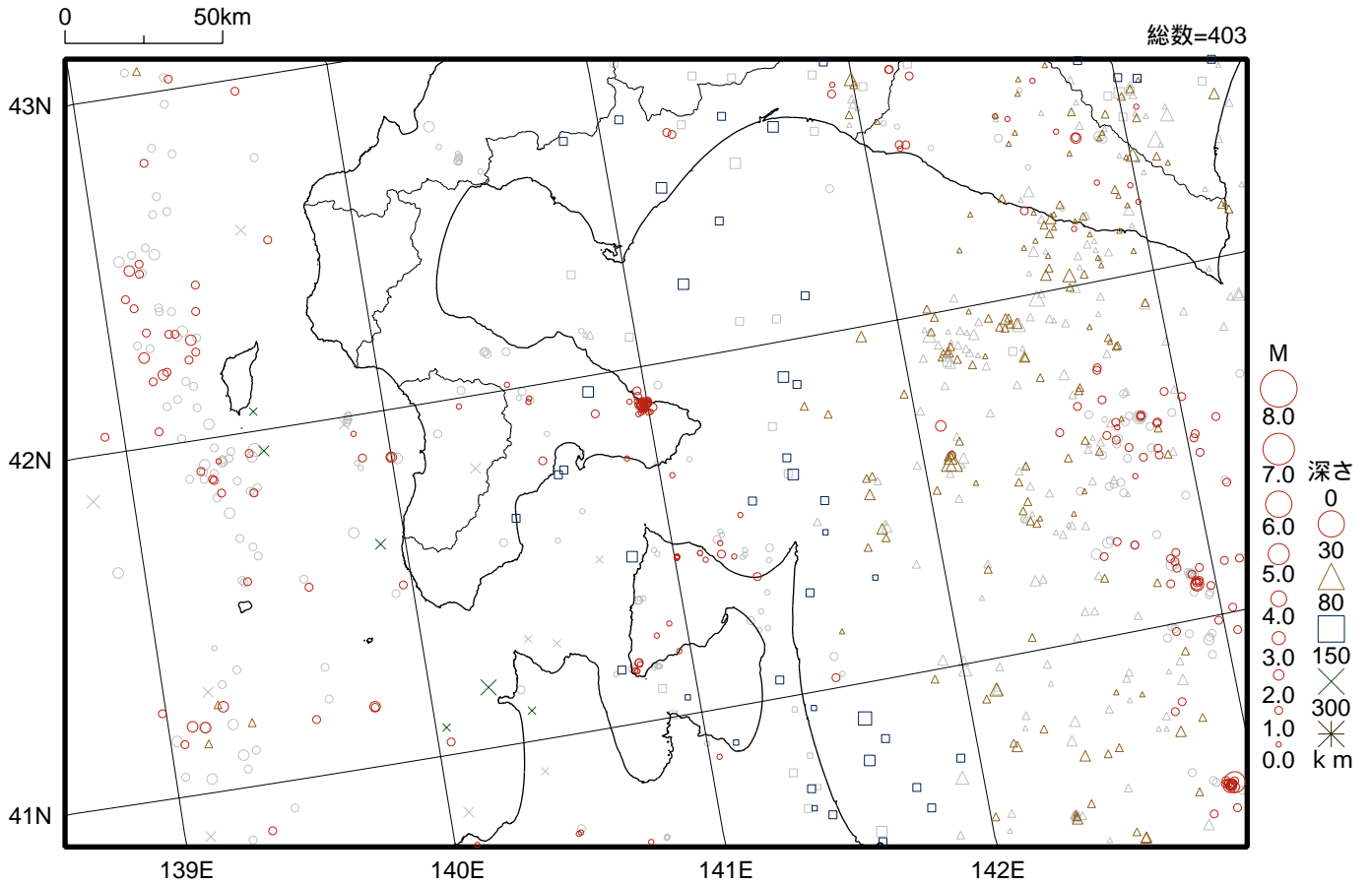
1：情報発表に用いた震央地名は〔浦河沖〕です。

2：情報発表に用いた震央地名は〔内浦湾〕です。

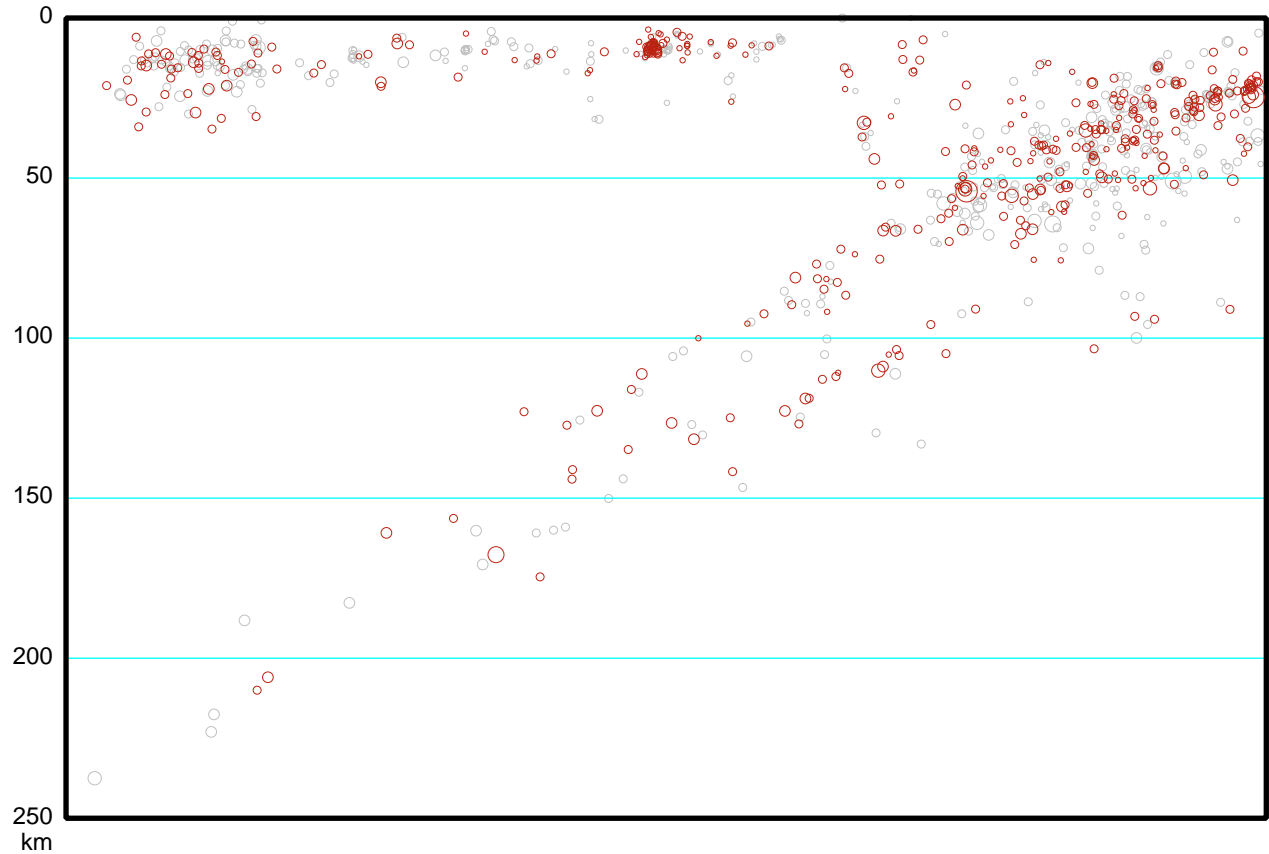
この活動図は、函館地方気象台のホームページ（<https://www.data.jma.go.jp/hakodate-c/>）に掲載しています。この資料に関する問い合わせ先 函館地方気象台 TEL 0138-46-2211

2022年9月1日 ~ 2022年9月30日

震央分布図



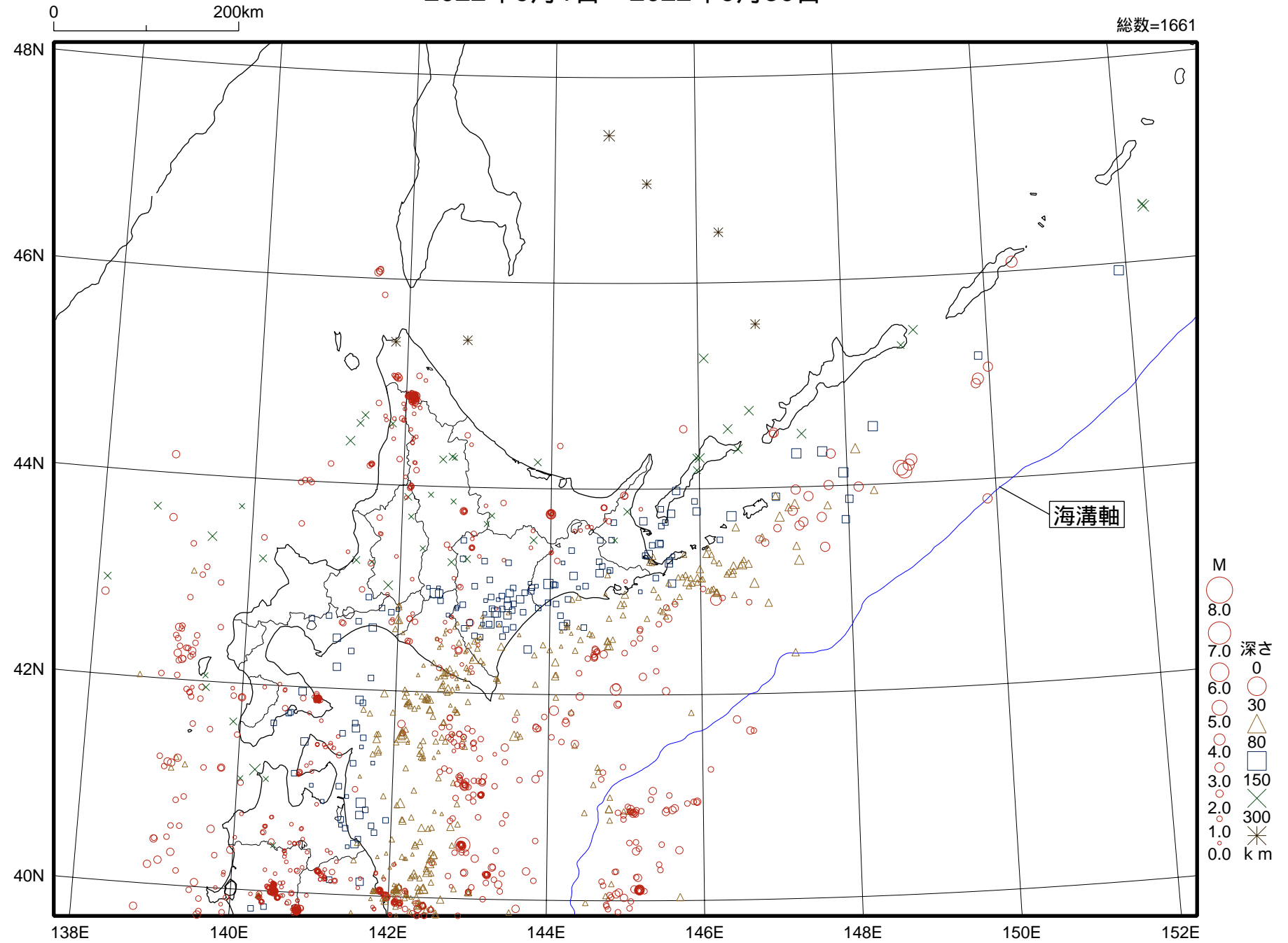
断面図



北海道の地震活動図

2022年9月1日 ~ 2022年9月30日

震央分布図



渡島・檜山地方で震度 1 以上を観測した地震の表 (2022年9月)

年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (km)	規模 (M)
2022年 9月13日 渡島地方	09時51分 震度 3 震度 2 震度 1	青森県東方沖 函館市泊町 * (26) 函館市新浜町 * (16) 函館市美原 (07) 函館市大森町 * (09) 函館市川汲町 * (10) 函館市日ノ浜町 * (12) 七飯町桜町 (06) 七飯町本町 * (07) 鹿部町宮浜 * (08) 渡島森町砂原 * (10) 木古内町木古内 * (12)	41 ° 34.5 N	142 ° 06.2 E	54 km	M5.1
2022年 9月23日 渡島地方	11時03分 震度 1	苫小牧沖 函館市泊町 * (07)	41 ° 58.3 N	141 ° 51.1 E	44 km	M2.8
2022年 9月27日 渡島地方	01時05分 震度 1	青森県東方沖 函館市泊町 * (12) 函館市新浜町 * (11)	40 ° 31.3 N	142 ° 55.2 E	25 km	M5.0
2022年 9月28日 渡島地方	03時43分 震度 1	渡島地方東部 函館市川汲町 * (09)	41 ° 53.5 N	140 ° 58.8 E	9 km	M2.4
2022年 9月29日 渡島地方	03時28分 震度 1	渡島地方東部 函館市川汲町 * (12)	41 ° 53.4 N	140 ° 58.7 E	9 km	M2.3
2022年 9月29日 渡島地方	03時31分 震度 1	渡島地方東部 函館市川汲町 * (08)	41 ° 53.3 N	140 ° 58.3 E	9 km	M1.9

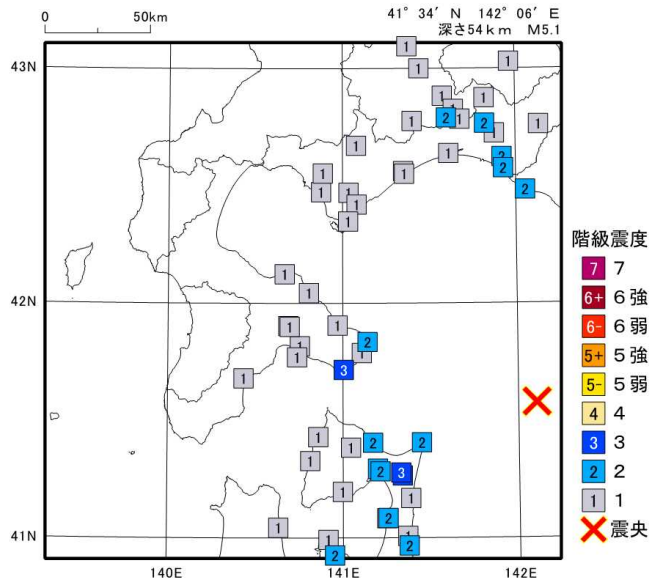
* のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

()内の数値は0.1単位の詳細な震度 (計測震度) の小数点を省略して表しています。

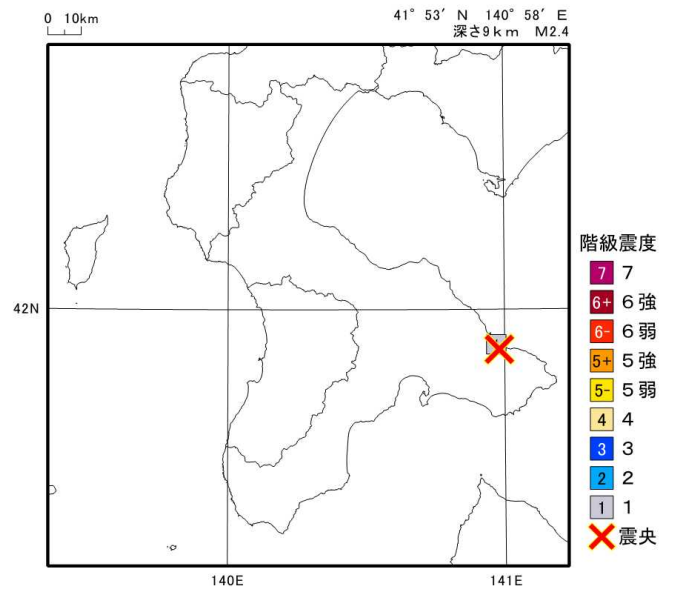
計測震度と震度階級の関係

計測震度	~ 0.4	0.5 ~ 1.4	1.5 ~ 2.4	2.5 ~ 3.4	3.5 ~ 4.4	4.5 ~ 4.9	5.0 ~ 5.4	5.5 ~ 5.9	6.0 ~ 6.4	6.5 ~
震度階級	0	1	2	3	4	5 弱	5 強	6 弱	6 強	7

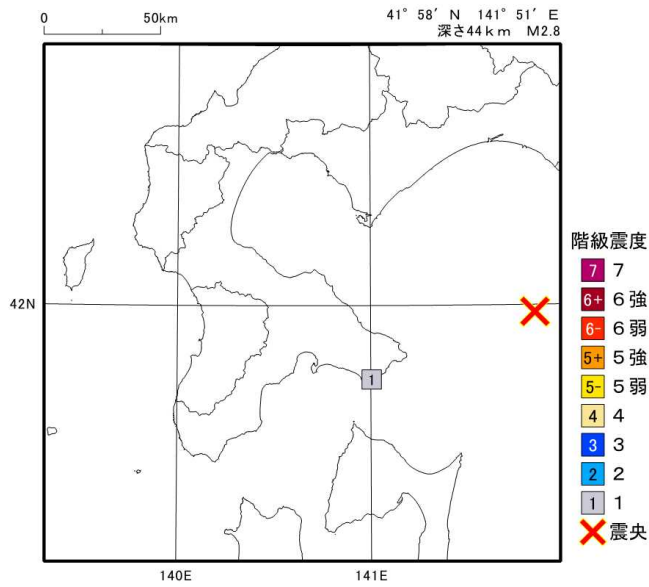
2022年 9月13日09時51分 青森県東方沖の地震の震度分布図



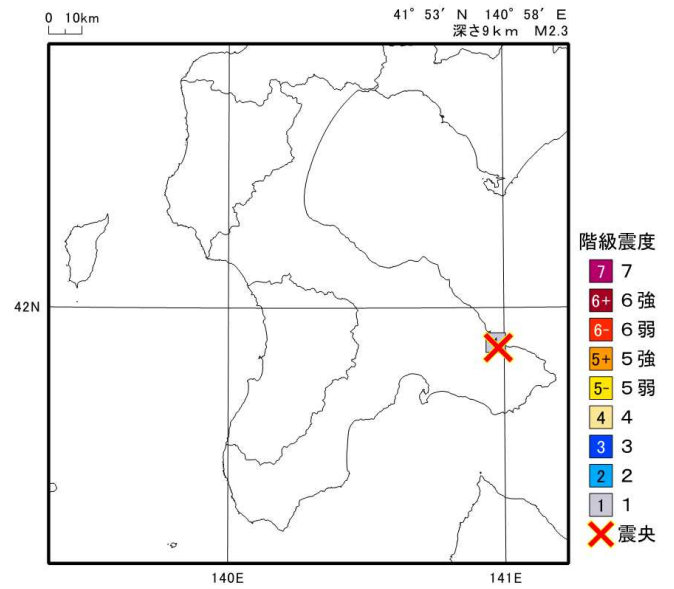
2022年 9月28日03時43分 渡島地方東部の地震の震度分布図



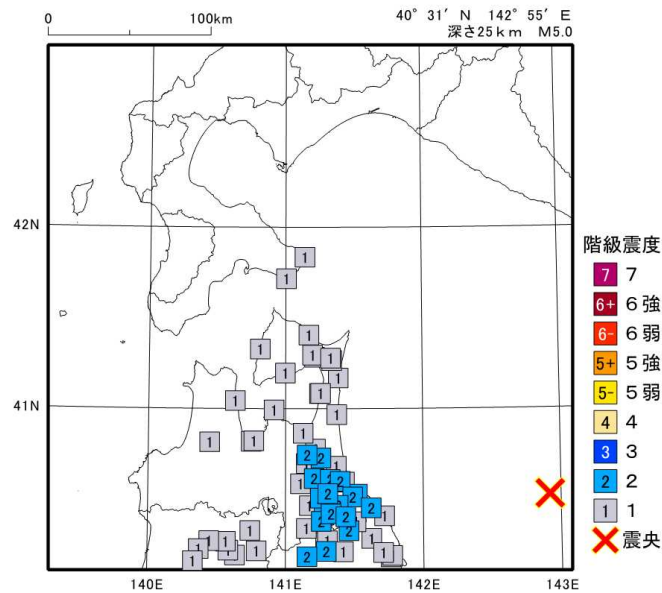
2022年 9月23日11時03分 苫小牧沖の地震の震度分布図



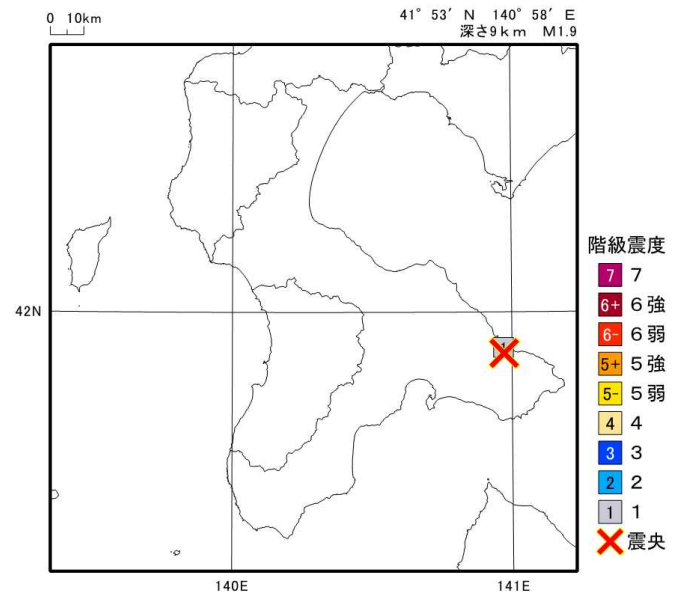
2022年 9月29日03時28分 渡島地方東部の地震の震度分布図



2022年 9月27日01時05分 青森県東方沖の地震の震度分布図



2022年 9月29日03時31分 渡島地方東部の地震の震度分布図



本資料の利用にあたって

- ・ 本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- ・ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- ・ 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
- ・ 過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- ・ 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

【防災メモ】

～11月5日は津波防災の日・世界津波の日～

●津波防災の日・世界津波の日とは

平成23(2011)年3月11日に発生した東日本大震災を教訓として、同年6月に津波対策を総合的かつ効果的に推進することを目的とした「津波対策の推進に関する法律」が制定されました。その中で、国民の間に広く津波対策についての理解と関心を深めるために、11月5日を「津波防災の日」とすることが定められました。11月5日(旧暦)は、安政元年(1854年)に、「稲むらの火」^{※1}のモデルとなった、安政南海地震が発生した日です。さらに、平成27年の国連総会では11月5日を「世界津波の日」とすることが採択され、津波防災の新たな取り組みが始まりました。

※1「稲むらの火」

海辺の村を大津波が襲った際、村の郷土が積み上げられた稲束の「稲むら」に火を放ち、暗闇の中で多くの村人を高台に導いて救ったという物語。戦前の国語教科書に掲載され、現在も津波防災教材として国内外で高く評価されています。

●緊急地震速報訓練に参加しましょう

津波から安全に避難するためには、まず地震の揺れでけがをしないことが大切です。緊急地震速報はそのために役に立つ情報ですが、訓練に参加し実際に体を動かす経験をしておくことで、とっさの時に安全行動を取りやすくなります。毎年11月5日の津波防災の日やその前後には、緊急地震速報の全国的な訓練を国の機関や地方公共団体のほか、学校、民間企業等や個人にも幅広く呼びかけて実施しています(「シェイクアウト訓練」^{※2}が行われる場合もあります)。もしもの時にご自分の命を守るため、積極的にご参加ください。

(今年度の訓練はこちら <https://www.data.jma.go.jp/eew/data/nc/kunren/kunren.html>)

※2「シェイクアウト訓練」

2008年にアメリカで始まった地震防災訓練で、同じ日時に参加者が一斉に、地震から身を守るための3つの安全行動(右図)を各人がいる場所(職場、学校、外出先等)で約1分間行うものです。



出典：効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議 (<http://www.shakeout.jp/>)

●津波から身を守るために

危険な場所を確認しよう

津波に襲われる恐れのある場所をハザードマップや周辺地形から確認しておきましょう。



津波注意

避難場所を確認しよう

津波避難ビルや津波避難場所がどこにあるか、また避難経路などを周りの人と確認しておきましょう。



津波避難ビル・津波避難場所

避難訓練に参加しよう

実際に避難経路をたどってみるなど、積極的に訓練に参加しましょう。

